様式1

令和２年度　学校評価表

学校教育目標	未来を拓く　心豊かな　たくましい　高見っ子の育成

a　ミッション	○理科教育を基盤としたカリキュラム・マネジメントによる教育活動の充実	a　ビジョン	人間の根っこを育てる学校づくり

尾道市立高見小学校

評価計画						自己評価					学校関係者評価				改善計画
	b 中期経営目標	c 短期経営目標	d 目標達成のための方策	e 評価指標	f 目標値	7月 g 達成値	1月 g 達成値	h 達成度	i 評価	j 結果と課題の説明	k 二次評価 イ	ロ	ハ	l コメント	m 改善案
気づき、考え、幸動する子供の育成（主体性・表現力・かかわり合い）	かかわり合いを通した主体的な学びの確立	児童が学ぶ意欲をもち，自ら学ぶための主体性と表現力を育てる授業改善	・カリキュラム・マネジメントを通して児童が主体的に課題発見・解決学習に取り組む授業づくりを進める。 ・理科・生活科を中心においた研究を行い，論理的に表現できる児童を育成する。	学習の効率化を図るカリキュラム・マネジメントを行った教師の割合 児童アンケート(課題解決に向けて，自分で考え，自分から取り組んでいた）における肯定的評価の割合 理科単元末テスト（思・判・表）におけるＢ評価（７０％）以上の児童の割合	90 90 80	100 94 85		111 104 106	A A A	・児童が主体的に課題発見・解決学習に取り組むために，カリキュラム・マネジメントの視点をもった授業づくりを進めてきた。校内研修で具体的な指導内容や指導方法について交流したり協議したりしてきたことで視点が明確となり，個々の教職員の実践に活かされている。 ・児童アンケートの結果からも，多くの児童が課題解決に向けて主体的に取り組んでいることが分かる。児童の興味・関心に基づく課題をもたせるための工夫をしてきたことが，児童の肯定的評価に繋がっていると考えている。 ・理科の学習において，仮説や考察の場面では，根拠に基づいた自分の考えを書かせることに注力して指導を続けている。また，振り返りの場面では，学習した内容やさらに追究してみたいこと等の視点を設け，授業の振り返りを書かせる活動を継続している。この継続した学びにより，児童が論理的に思考し，表現していることに繋がっていると捉えている。	3			・評価指標において,カリマネを実施する教師の自己評価及び，単元末テスト，児童アンケートの三つの方法が提示されているが，児童アンケートは児童個々の価値観や人間性が影響すると考えられるので，日頃からの児童一人一人をよく見つめた上での評価となるように工夫していただきたい。 ・コロナ対策による臨時休業期間が長期に長引いたことにより，教育活動全般において学習時間が少なくなり，カリキュラム・マネジメント全般において，大変な苦労があることが分かった。非常に大変だとは思うが，学びにおいて遅れる子供がないように注意して教育活動を進めて頂くことを願う。 ・久しぶりに子供達が一生懸命に学びに向かう姿を見ることができ，今日は大変良かった。 ・教職員自身が授業に対し，ワクワクする気持ちを大切にして授業に臨み，子供達と授業を楽しんでほしいと願う。 ・指導内容について，具体的に何を行うのか分かりやすい表現で説明されるとよい。	・単元を貫く課題の設定などを工夫し，授業づくりを進めていく。そのために，児童どうしのかかわり合いを深めていくために，何をどの場面で，どのような方法で取り組ませるのか，見通しをもって授業を構想していく。 ・PDCAサイクルに基づき，実践したことを教職員で共有し，よりよい教育活動の創造に向けて評価・改善していく教職員集団の風土を醸成していく。 ・児童の実態を細やかに見取ることで課題を明確にし，個に即した学力補充を充実させていくことで学習のつまずきを解消していく。 ・目標達成に向けた方策において，その具体的な手だてについて明確に説明できるよう工夫していく。
	自己を振り返り，よりよく生きようとする態度の育成	人とのかかわりを通じて，自他のよさを認め合い，進んで自分の思いを表現できる教育内容の充実	・「しまっ子しぐさ」を基盤として，縦割り班活動や学校行事等を通して自分のよさに気付き，友達のよさを感じられる児童を育成する。 ・個人カードを活用し，常にめあてを意識化させることで振り返りを充実させる。	自分の思いを表現できている児童の割合（教師アンケート） 「自分にはよいところがある」と感じている児童の割合（児童アンケート）	85 90	85 86		100 95	A B	・児童アンケートの結果，おおむね８割以上の児童が自己肯定感をもつことができている。しかし，「自分の良いところがない」という児童も２割程度いて，学校や家庭での生活の中で悩みや不安があり，自分に自信が持てない児童もいると考えられる。 ・個人カードに関して，健康面では７月に生活リズムチェックを実施した。今年度から１週間の振り返りを自分で3段階評価する欄を設け，８割を超える児童が自分の生活リズムを肯定的に評価していた。残りの2割の児童の多くは土日にリズムが崩れたり，寝る時間が守れなかったりしていたと考えられる。	3			・コロナ対策としての取組を含め，「○○しなさい。」ではなく，校内掲示や指導の方法に工夫を凝らすことで，児童の「やろう。」という主体性・気持ちを育てていると感じた。 ・評価表の中期目標をしっかりと絞り，目標達成のための方策を単純化して共通認識を持ちやすくしていることに対し評価できる。	・児童一人一人が自分の良さに気づけるように，日々の生活の中での悩みや不安を個別で聞いたり，家庭との連携を密にしたりする。また，学校生活の中で児童が活躍できる場を設けたり，活動の振り返りに重点をおき，児童同士が互いの良さを見つけ合える時間を設定する。 ・達成可能なめあてを児童一人一人が設定する。そのためには，各担任が個々のめあてを設定する場面において，児童の実態を考慮して助言や指導を行う。さらに，日々の支援や声かけを行うことで，目標達成を促し，児童一人一人が自己肯定感を感じられるようにする。

【自己評価　評価】
Ａ：１００≦（目標達成）　Ｂ：８０≦（ほぼ達成）＜１００
Ｃ：６０≦（もう少し）＜８０　Ｄ：（できていない）＜６０

【外部評価】　イ：自己評価は適正である。ロ：自己評価は適正でない。　ハ：わからない。